此謂京本雖非最舊然亦百年前拓也最見王孝禹藏本謂京字同此它亦無所異惟墨色沈厚字口渾灝而氣較之盡乾隆以前本矣王本已為劉喜陶所得數以此本對勘王本外未見更勝者又屢見覆本氣未嘗不厚而特顯重濁固不如此等應本為清劬耳

漢刻中韓仁銘封龍山碑尹宙碑並是一路結體方闊用筆圓潤極莊重靜穆若加之頓挫便出鈎別此夏承魯峻范式諸碑所由作也反乎此者則史晨之秀整禮器之矯變孔宙之飄逸曹全之適鍊張遷之老辣衡方之渾樸景君之嚴正則各極其長若此為階梯得其中正然後參之各碑以盡其變前賢正自異後生也摩崖各種又與碑刻少異故不比擬

凡學古人書無論隸古隸楷或漢或唐羣隸皆宜高超高落是謂遠勢清諸家十九用近勢所以不能令人滿意也學漢隸尤宜要遠勢又須明明折潛轉之法則得其門而入矣

隸古中有所謂八分者是隸法之中變而云隸分純乎隸古無波折石刻中如鄧君開通褒斜道記金文中如秦詔版文漢鐙款識最多可參見也此正是隸分且當分勢最盛之時故波折皆極和婉諧揚凡學分書當多用一波三折筆左撇右捺長橫大直及磨磚之處無非此為之惟波折之用如此而波折各碑不同此又宜參而考之者也

「落ち穂拾い記」⑳
『韓仁銘』（下）

題韓仁銘

此謂京本雖非最善然亦百年前拓也霽見王孝禹藏本謂京字同此它亦無所異惟墨色沈厚字口渾凝而氣較足蓋乾隆以前本矣王本已露劉希陶所得數以此本對勘王本外未見罕勝者又墓見履本氣未審不厚而特顯重圓固不如此等瘦本露清勁耳

漢刻中韓仁銘封龍山碑尹宙碑蓋是一路劫體方闊用筆圓潤極莊重靜穆若勿之翻往便出鈴鼎此夏承碑嶧山碑所由作也反乎此者則史晨之秀整禮器之嬌變孔宙之飄逸曹全之遺鍵張遷之老辣衛方之渾樸景君之嚴正各極其長若以此篇增補得其中正然後參之各碑以盡其變而賢正自長後生也摩崖各種又與碑刻不比健

凡學古人書無論隸古隸楷或謹或放筆勢皆宜高超高遠是謂遠勢清雅宋十九用近勢所以不能令人滿意也學漢隸尤要遠勢又須明明折潛轉之法則得其門而入矣

隸古中有所謂八分者是隸法之中變亦云隸分純乎隸古無波折石刻中如衡君開通貴斜道記金文中如秦詔版及漢鐙款識最多可考見也此正是隸分且當分勢最旋之時故波折愈和婉諧暢凡學分書當多用一波三折筆左徹右發長橫大直及鬱環之處無無此篇之惟波折之用如此而各碑波折不同此又宜參而考之者也

「弗堂類稿」韓仁銘に題す部分

書道美術新聞

私も一言

伊藤滋

同じ碑から違う拓本？

避けてほしい安易な補墨

光雲堂

書道美術新聞（1981年４月）

「韓仁銘」商務印書館本（書跡名品叢刊の底本）

姚華旧蔵の『韓仁銘』は、各種の影印資料と比較しても劣るものではなく、優れた善本であると認識した。当時、書道史研究の大家であられた伏見冲敬先生の『中国書道の新研究』（上巻・二玄社）の中の「漢 閒熹長韓仁銘」の解説文中に、姚華の韓仁銘の批評と隷書一般に関する論が優れているので、姚華の『弗堂類稿』の「題韓仁銘」の全文をそのまま引用されていた。この「此謂京本」から始まり、「考之者也」まで四百字余りは、家蔵本の巻末に姚華の見事な小楷でしたためられていた。姚華の著作の『弗堂類稿』に収録された原文であることを知った。碑額のあとの余白にも百五十余字の同様の跋が付されてある。この頃、二玄社の『書跡名品叢刊』は完結にいたらず、まだ配本中であった。第206回として『韓仁銘・夏承碑』が配本された。どのような新しい底本が使用されているか関心を抱いていた。開けてややがっかりした。『韓仁銘』も『夏承碑』もともにこれまで目にし、入手していた民国期の中国の商務印書館や文明書局コロタイプ版の翻印であった。『韓仁銘』は清朝名家の高南阜の題簽や黄保戉の跋のある善本とされるものを選定されたようである。この時点で手にしていた各種資料と配本されたばかりの書跡名品叢刊本とを比較して、二玄社本の底本（商務印書館本）の原帖は、拓本に相当手を加え、点画が全く原刻とは、異なっている部分があること発見した。この見解を、生まれて初めて、文章にして発表した。昭和56年（1981）の4月1日付けの『書道美術新聞』に「私も一言」の欄で、「同じ碑から違う拓本？碑法帖出版、避けてほしい安易な補墨」として比較図版を付して記した。内容には、自分なりの自信があったが、同年の二玄社の編集をしていたY君からは、別の意味で厳しい一言を言われた。将来あるY君は、原色法帖選を担当されているころに、残念なことに早くになくなられた。

伊藤滋（書斎名・木鶏室）

書道芸術院
令和の群像（2021）

勝山初美

「襷をつなぐ」

高校1年の時、書道部顧問の下谷東雲先生に出会いました。運動部員の声が聞こえなくなるまで、広い書道教室で一人臨書に取り組んだことを思い出します。「全国学生書道展」で準大賞、「学生競書大会」では書道芸術院会長賞を受賞したことが、かな書道への一歩となりました。

長年、群馬県書道協会の会長をされていた東雲先生は、おだやかで人望が厚く、誰からも信頼され群馬の書道界を牽引されてきました。私達教え子も細やかなご指導をいただき、書道芸術院展・毎日書道展・群馬県書道展と出品し、書の道筋をつけていただきました。東雲先生亡き後は、洋子先生に古典の講義や漢字の講習会など作品創作の基礎を学ばせていただきました。牛歩のごとく学びの遅い私に書道の楽しさ、厳しさを教えて下さいました。

平成28年1月の東京都美術館主催の「TOKYO書2016 ―公募団体の今―」（壁面10m）また書道芸術院の「推薦作家展」（壁面7m）に出品の機会をいただき、大作に向き合うこととなりました。プレッシャーを感じながらも身の引きしまる思いで制作に取り組みました。この経験を通して挑戦することの大切さを実感し、二度とない機会を与えて下さった書道芸術院の先生方、ご指導くださった洋子先生には感謝に堪えません。

書を始めて半世紀をとうに過ぎ、カルチャー講座や公民館活動などで、『書道芸術』誌を活用し、展覧会に向けた指導をしています。小学生から習いに来た子どもたちが、今や毎日展会員・書道芸術院会員候補と昇格しています。中身の伴う指導は難しく、指導者としての力不足を痛感しています。書道芸術院の単位認定講習会に参加したり、毎日の積み重ねを大切にし、月例の「特別研究」などへ積極的に出品し、実力をつけてほしいと思っています。

下谷洋子先生や諸先生方のご指導を仰ぎながら、次世代へ襷をつなげられるよう精進してまいりたいと思います。

「TOKYO書2016」出品作品　勝山初美書

書のひろば

理事長　辻元大雲

第72回毎日書道展無事開幕
会員賞大内熒軒・渡辺柱雲両氏に

昨年開催を見送った毎日書道展は、第72回展を無事開催の運びとなった。5月、6月の公募会友U23の鑑別審査に続き、会員賞、文部科学大臣賞選考も予定通り行われ、7月8日から8月1日まで国立新美術館で、7月18日から24日まで東京都美術館にて開催された。東京展の後、全国9会場の地方展も左記の通り開催される。本院役員・会員諸氏のご協力ご支援をよろしくお願いしたい。

・文部科学大臣賞　加藤　裕氏（漢字）
・会員賞（本院関係）
　大内熒軒（漢字）渡辺柱雲（近詩）
　ほか24名

・中国展
　8月17日～22日　広島県立美術館
・北陸展
　8月22日～26日　富山県民会館
・東海展
　8月24日～29日　愛知県美術館ギャラリー
・四国展
　8月25日～29日　愛媛県美術館
・東北仙台展
　9月10日～15日　せんだいメディアテーク
・関西展
　9月22日～26日　京都市京セラ美術館ほか
・北海道展
　9月22日～26日　札幌市民ギャラリー
・九州展
　10月19日～24日　大分県立美術館
・東北山形展
　10月20日～24日　山形美術館

中国展小竹石雲、北陸展大石仙岳、東北仙台展太田蓮紅の本院役員三氏は実行委員長を務めることとなっている。

7月18日(日)午後表彰式が芝公園ザ・プリンスパークタワー東京で参加者を大幅に制限して行われた。毎日賞以上は個別授与、秀作賞以下は代表授与となり、役員の参列を含め500名余が参加。祝賀懇親会は中止となり短時間で静かな雰囲気の中での進行となった。萩生田文部科学大臣もご臨席いただき、厳粛な中、心温まる表彰式であった。

毎日書道展表彰式にて
（左から：辻元・渡辺柱雲・大内熒軒・種谷萬城の各氏）

書道芸術院単位認定東京講習会
コロナの影響で中止に

8月21・22日急遽岡山会場から変更して東京浅草橋、共和会館で開催を企画し参加者も60名程度として確定まで至っていたが、8月22日までコロナウイルス蔓延の影響による緊急事態宣言発令となり、またしても中止となった。お申込みいただいていた皆様方に深くお詫び申し上げたい。来年は順延していた岡山会場にて開催する予定。ご了解を。

「書道」登録無形文化財に向け、新たに「日本書道文化協会」を発足

文化財保護法の登録制度はこれまで、有形の文化財や民俗文化財のみを対象としていたが、それを無形の文化財や民俗文化財にも広げる文化財保護法の一部を改正する法律が国会で審議され成立した。地域の祭りのほか、茶道や書道、食文化などの「生活文化」を日本文化の幅広さを示すものとし、保護強化を目指す。

改正法は2021(令和3)年4月16日に国会で成立し、4月23日に公布、6月14日に施行された。

登録認定のためには保持団体が必要で、登録案件を統括する団体であることが必要とされる。

文化庁は「登録の際は、会派を越えた団体の設置状況を考慮する」と述べており、8月末までには「書道」を統括する組織（保持団体）を設立しておくことが望ましい。

概略以上の経過により急遽登録無形文化財の保持団体にふさわしい書道を統括する団体として「日本書道文化協会」が設立されることになった。

6月9日に「日本書道文化協会(仮称)設立準備会」が国立新美術館会議室にて開催され、発起人は日本芸術院会員の井茂圭洞、黒田賢一、高木聖雨三氏、準備委員として毎日・読売・産経各書道展から13名、オブザーバーとして各書道展事務局代表他が参加。

・準備委員(役員候補)新井光風、石飛博光、遠藤疆、風岡五城、杭迫柏樹、齊藤香坡、高木厚人、辻元大雲、仲川恭司、中村伸夫、船本芳雲、星弘道、室井玄聳ほかにオブザーバー、事務局。

・8月28日設立総会が開催され、正式な組織が発足する予定。

「平和、友情、奮闘＝日中韓名家オンライン書法展」開幕式・オンライン揮毫式　7月20日に東京四谷「戒行寺(星弘道住職)」で挙行

2020東京オリンピック・パラリンピック、2022北京冬季オリンピック、2024韓国ユースオリンピック開催を支援する企画で、日本側は日中文化交流協会が対応する。協会のホームページで閲覧を。出品者は100名弱、日本側は30名余が出品している。

開幕式・揮毫式には星弘道氏と辻元大雲、協会から中野暁専務理事が参加、中国側は林松添中国対外友好協会会長、蘇士樹中書協名誉主席他、韓国鄭求宗韓日文化交流会議委員長他が出席し、各国2～3名が席上揮毫した。

かな基礎基本講座 (15)

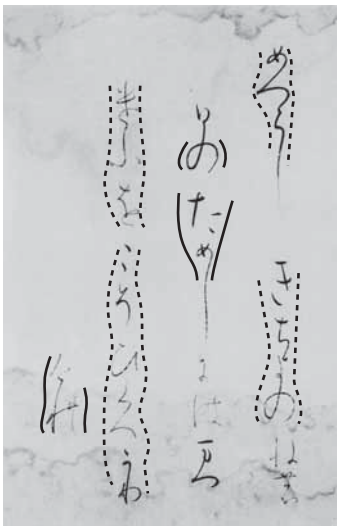
下谷洋子

何行かに書く(1)

古筆は、引き続き『蓬莱切』を参考に用いました。が、今回は、歌を書いてみます。

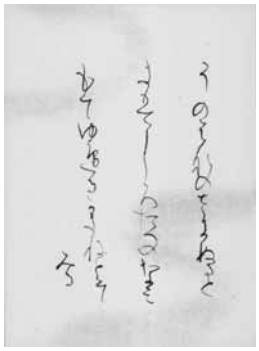
字数が多いので、却ってまとめやすいかと思います。

因みに、この和歌4行書きは、平安時代の歌の正書式でした。他にもこの書式を用いたものには、秋萩帖・綾地切・曼殊院古今集・十五番歌合などがあります。

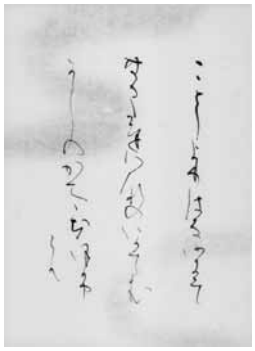


めづらしきちよのねの／日のためしにはまつ／けふをこそひくべかり／けれ

参考例　「新古今和歌集」



卯の花の咲きぬる時は白たへの波もて結へる垣根とぞ見る



今年より花咲きそむるたちばなのいかで昔の香ににほふらむ

基礎基本講座

現代詩文書基礎基本講座 (15)

小竹石雲

【建中告身帖】 顔真卿　唐　780年

顔真卿は学徳豊かで、節義のためには死を恐れない剛直の人であった。顔真卿が皇太子の養育を担当する太子小師の官職を授かった時の辞令書を自書したといわれている。晩年の作で自書告身帖とも呼ばれている。

・原帖

①写実的臨書

②発展的臨書

特徴

向勢に構えた、肉付きのよい重厚で力強い逞しさが特徴。篆書の筆意を加味したいわゆる「顔法」(蚕頭燕尾)と呼ばれる新法(王羲之の古法に対して)をうち立てた。

①写実的臨書

・筆は羊毛中鋒を使用し、墨は濃墨。

・基本直筆で書く。

・建中告身帖は顔真卿の他の楷書中、殊の外抑揚が大きい。開閉に勢いをつけることが大事。開いた線の重厚さ、閉じた線の緊張感、この落差がなんとも痛快である。

②発展的臨書

・ひらがなとの調和を意識し、上下運動に加え水平運動も交えてみた。リズムや字形にも自由さを加えてみた。

令和3年度 新審査会員作品

坪井 明寿（漢）・前浜 裕香（漢）・齋田 舞夢（現）・柳川 蝶月（現）

坪井明寿
（長野）

「露」

なかなか思うように書けない生活環境の中で、気がつけば「書」の魅力に惹かれ夢中になっている自分がそこにいます。

長年ご指導いただいた小浜梅窓・大明両先生には心より感謝申し上げます。昇格させていただいたこれを機に、なお一層努力して参る所存です。

（明寿）

齋田舞夢
（宮城）

「思い」

この度は、審査会員にご推挙いただき有難うございます。

尾形鼎山先生ご夫妻、澄神先生の温かいご指導と蒼原社中の諸先輩・書友の皆様に日々刺激をいただき今日に至ること、心より感謝申し上げます。

今回の作品は、今後も常に大事にしたい思いを書きました。これからも楽しみながら精進して参りたいと思います。

（舞夢）

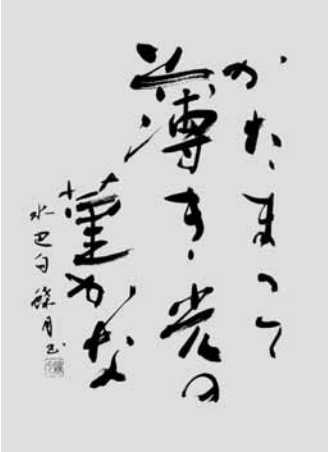
前浜裕香
（大阪）

「晴」

この度は審査会員に昇格させていただきありがとうございました。ご指導下さる諸先生方に心より感謝申し上げます。昨年は鬱々とした中、筆を持って紙に向かうと心が落ち着くこと、書いていて楽しいことを再確認した年でした。明るく晴れる日が早く来ることを願って書きました。

（裕香）

柳川蝶月
（高知）



「渡辺水巴句」

春の日差しを受け、スミレの花が光を放つように私も様々なことを学びながら、書に反映させていきたいと思います。この度は、審査会員にご推挙いただきありがとうございました。ご指導いただいた小竹石雲先生、小竹正高先生、諸先生方に心より感謝申し上げます。これからは尚一層書の道に精進し、書道芸術院のお役にたてるよう努めてまいりたいと思います。

（蝶月）

※9月号でも引き続き、新審査会員の紹介をいたします。

古典鑑賞

435

温泉銘（おんせんめい）②

（唐・太宗（たいそう）皇帝）

〈解説〉「温泉銘」（648）は、「晋祠銘」（646）とならび太宗皇帝の書を代表する傑作である。字形は縦長で、文字の大小・点画の長短など自由奔放に変化させながらも、巧妙にバランスのとれた構成であることが特徴である。また、王羲之の書風を根底とし、力強い筆勢を十分に活かし、筆の抑揚を駆使したスケールの大きいダイナミックな行書である。太宗51歳、亡くなる前年の書であるが、たびたび訪れ、活力を与えられた驪山（りざん）温泉の効能や雄大な自然のさまを、大中国を治めた偉大な皇帝にふさわしい筆致で後世に書き残した。（編集部）

長決施於無窮。故／勒芳碑。乃爲銘曰。／巖々秀岳。横基渭／濵。滔々靈水。吐岫標／神。古之不舊。今之不

（掲載図版・83%に縮小）

※落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨（押印のみも可）

漢字研究部臨書課題	（半紙普通判・縦使用）上記掲載部分より何文字臨書してもよい。
特別研究部臨書課題	（A.大作の部―毎日展審査会員・会員サイズ以内、2×6尺・全紙も可 B.小品の部―半切⅓以上半切以内・全紙½（約68×68㎝）以内も可（縦横自由）） 当該古典の上記掲載部分以外も可。

一条摂政集（伝西行）②

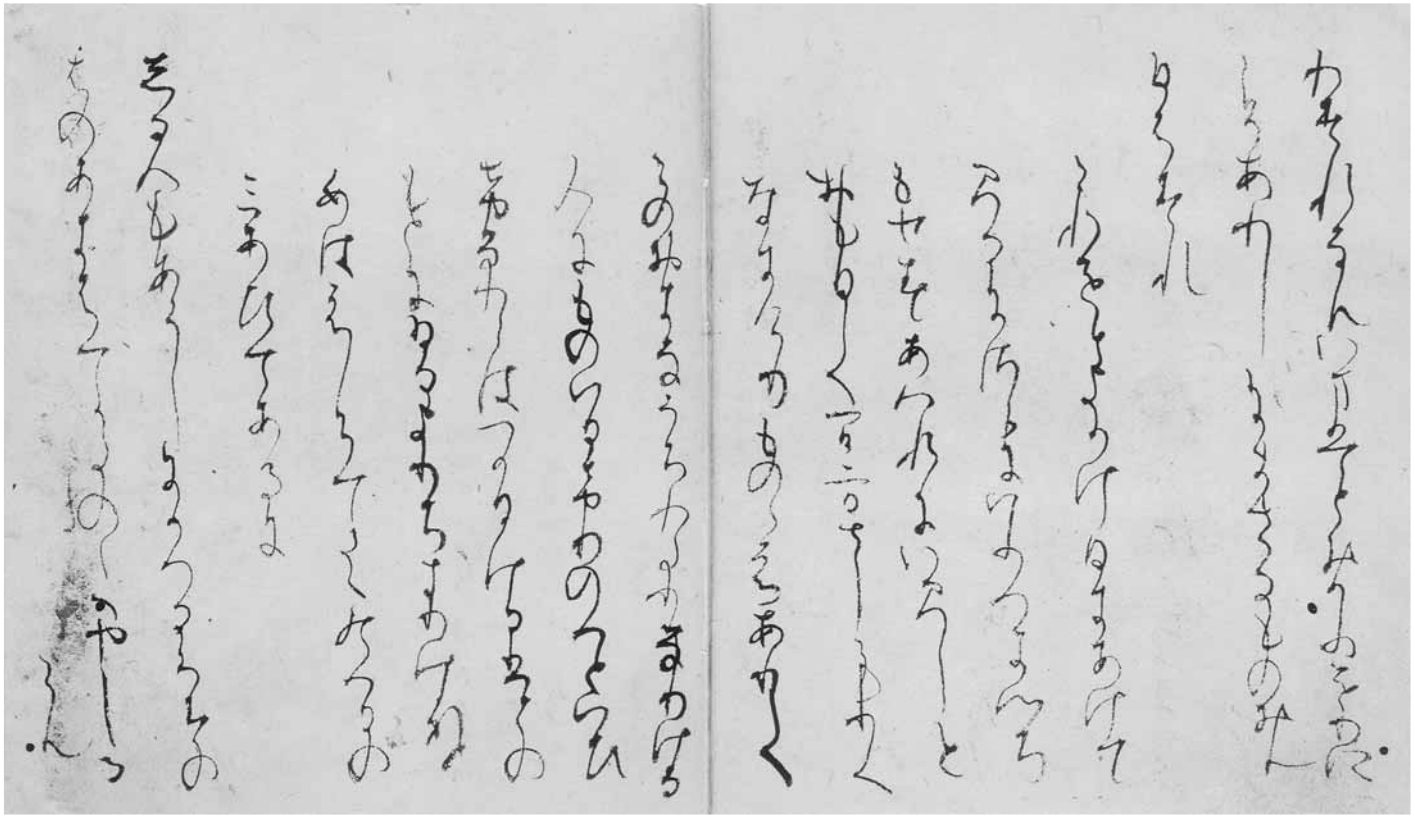
かな研究部臨書課題

（半紙普通判（料紙可）・横長に使用）
別紙を裁断して貼付も可。半懐紙は半紙サイズに切って使用のこと。
左記の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。（全臨も可）

特別研究部臨書課題

A. 大作の部＝毎日展審査会員・会員サイズ以内、2×6尺・全紙も可
B. 小品の部＝半切1/3以上、半切以内・全紙1/2（約68×68㎝）以内も可（縦横自由）
〈当該古筆の左記掲載部分以外も可。〉

※掲載図版・84%に縮小



（個人蔵）

〈よみ〉

わすれなむいまはとおもふをりに
こそありしにまさるものおも
ひはすれ

これをとよかげひきあけて
みるに、さらにいふべき心ち
もせず、あはれにいみじと
おもひて、一日二日さしこもりて
なきけり、ものゝえありて、
このおきな、うちわたりなりける
人に、ものいひけり、のべといひ
けるわらはつかひけるひとの
もとに、ひるよりちぎりけれど、
女はえしらで、たゞのべにの
みあひてあるに
しる人もあらしにかへるくずの
はのあきはてがたのゝべやしる
らむ

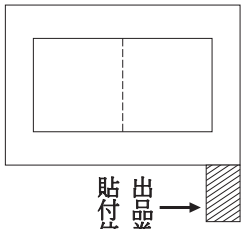
〈解説〉一条摂政集は、藤原定家の所持本であったため、定家の集付および書き入れがある（手沢本という）。和歌の上部に書かれている集付けの「撰」「拾」「新」「勅」は『後撰集』『拾遺集』『新古今集』『新勅撰集』に採入されている歌であることを示している。

料紙は薄手の楮紙が使われている。その書は連綿が美しく、速筆で、気取りがなく自然な美を展開している。素直で滑らかな線、行の傾きによって生じる空間、1行の中での疎密、律動の変化などが絶妙に調和した古筆である。

（編集部）

※落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨（押印のみも可）

〈半紙ヨコ形式に限る〉



※古筆は原寸（以上も可）で臨書しましょう。

漢字規定 初段以上【九月十五日締めきり】 用紙 半紙普通判

種谷萬城選書

如龍得水 よみ（如龍得水）

書体＝自由

習い方解説 (五)

種谷萬城

如龍得水

（「禅苑清規」）

（龍の水を得たるが如し）

語句の意味は「自己が本来持っている境地に返ること」です。今月は、漢簡の倣書です。漢代の肉筆資料である漢簡の書体には八分隷、草隷、章草があります。草隷から行書、章草から草書が生まれます。筆の穂先の開閉を自在に用いた草隷の漢簡の多彩な線は、生命感に溢れ、躍動的です。特に装飾的な波磔は、表情豊かで魅力的です。左の一作は、草隷から生まれた行書で書いてみました。

〈参考作品〉

漢字規定　秀級以下　【九月十五日締めきり】　用紙　半紙普通判

千葉蒼玄選書

恵風和暢　よみ（恵風和暢）

書体＝楷書

習い方解説（五）

千葉蒼玄

恵風和暢（恵風和暢）

＊「恵風」は生物を育む恵の風。「和暢」は穏やかでなごやかなこと。

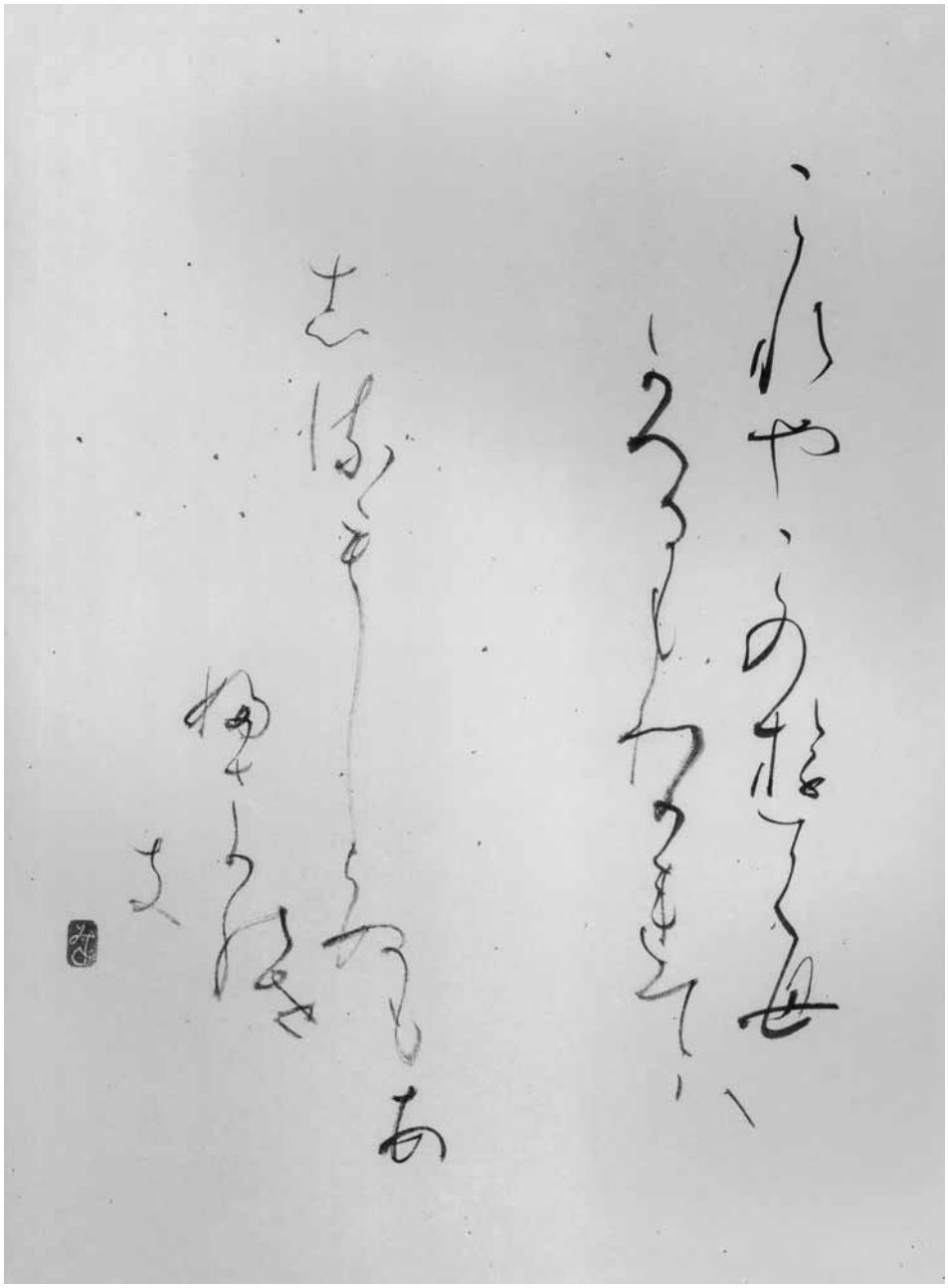
天朗氣清、恵風和暢は蘭亭序の中でも特に有名な字句である。大自然の中で穏やかに過ごす光景が目に浮かぶ。

今回は光明皇后の楽毅論を参考にしてみた。書は人を表すというが、どう書けば王羲之の楽毅論がこんなにも変化するものだろうか、入筆から終筆まで鋼を折り曲げたような強靭な線である。この書が中国的な強さだとすると、夫である聖武天皇の書体は繊細でまさに日本的といえるのではないか。

〈楽毅論〉

かな規定 初段以上【九月十五日締めきり】 用紙 半紙普通判（料紙可）

平川峰子選書



よみ方　これやこの往(遊)く(久)も(母)帰(可へ)るも別(和可)れ(連)ては(八)知(志)る(流)も(毛)知(し)らぬもあふ(婦)坂(さ可)の(能)関(世支)

創作

習い方解説 (二)

平川峰子

これやこの往くも帰るも別れては
知るも知らぬもあふ坂の関

（蟬丸）

山城国（京都府）と近江国（滋賀県）との境にある逢坂の関で東国へ下って行く人、都へ帰る人がすれ違い、出会いと別れの様子を表現した歌。

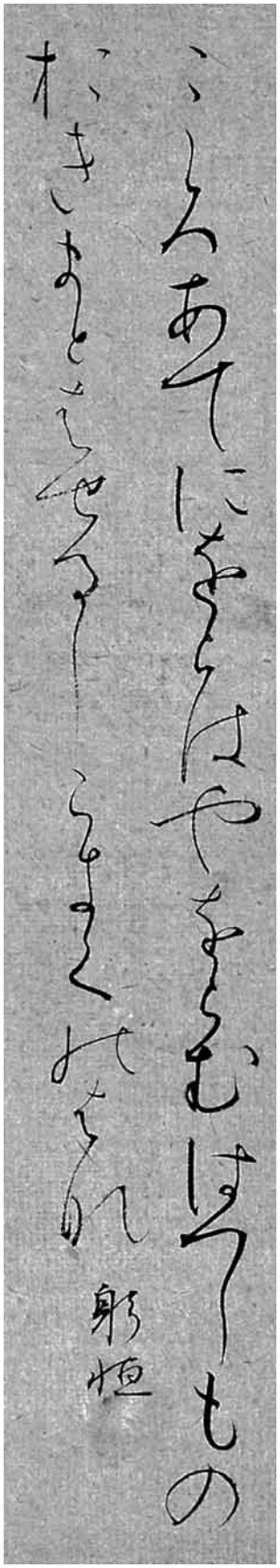
蟬丸は平安時代初期の人ですが、醍醐天皇の皇子であったとも、敦実親王に仕える官位の低い官僚であったとも伝えられ、後に逢坂山に住んだと記されています。盲目であったと言われ、和歌に優れるとともに琵琶の名手でもあったと伝えられています。

今回の歌は、墨継ぎを3行目のあでしました。「あふ坂の関」を漢字で表現する人が多いかと思いますが、あえて変体がなにして最終行をき（支）1字の構成にしました。

＊料紙は半紙版（33.0×24.5㎝）を使用しましょう。

かな規定　秀級以下　【九月十五日締めきり】　用紙　半紙タテ1/2（料紙可）（たて32センチ・よこ12センチ）

掲載写真の和歌を臨書する。または部分（2字以上の連綿または単体を含む）を臨書する。

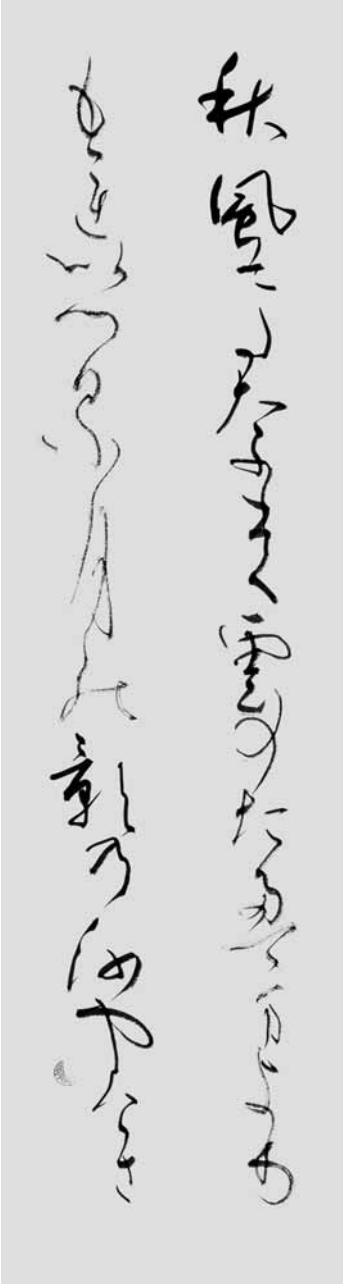


粘葉本和漢朗詠集
（掲載写真拡大120％）

よみ方　こゝろあてにをらばやをらむはつしもの
お(於)きまどは(者)せるしらぎ(支)く(久)の(能)は(者)な(那)躬恒

かな条幅規定　【九月十五日締めきり】　用紙　小画仙紙半切（料紙可）

小島孝予選書



よみ方　秋風に(二)た(多)な(奈)び(悲)く(久)雲の絶(た)え(盈)間(万)より(利)
漏(も)れ(連)出(以)づ(川)る(累)月の(能)影の(乃)さ(沙)やけ(介)さ

創作

習い方解説（二）

小島孝予

秋風にたなびく雲の絶え間より
漏れ出づる月の影のさやけさ
（藤原顕輔「新古今和歌集」）

2行書きは、1行を14文字ほどに配置すると調和がとれます。適切な漢字を用い、行の流れとともに隣り合う行との響き合いを考え、より効果の高い変体がなを配置しましょう。また、連綿による流れの中で、墨色と渇筆は大切です。直筆則筆の加減によって線の変化を工夫し、伸びやかで響きのある線で大きな流れを表現しましょう。

※タテ形式に限る

漢字条幅規定　初段以上【九月十五日締めきり】用紙　小画仙紙半切

辻元大雲選書

渭水東流去　何時到雍州　憑添兩行涙　寄向故園流
（岑参）
（渭水東に流れ去る　何れの時か雍州に到らん　憑って両行の涙を添え　寄せて故園に向って流さん）

書体＝自由

習い方解説（五）

辻元大雲

今回から五言絶句、20字表現です。唐詩選よりお借りしましたのでご存知の方も多いと思います。

渭水の流れを眺め、はるか故郷への想いを募らせる。望郷の念に涙する心情が偲ばれます。

20字と字数が多いのでやや詰まり気味となりますが、大小の変化などで工夫を。

※タテ形式に限る

漢字条幅規定　秀級以下【九月十五日締めきり】用紙　小画仙紙半切

半田藤扇選書

雲斷青天鶴意閑　浪連古岸魚行漫
（「永平廣録」）
（雲青天に断えて鶴意閑かなり　浪古岸に連なりて魚行漫なり）

書体＝自由

習い方解説（五）

半田藤扇

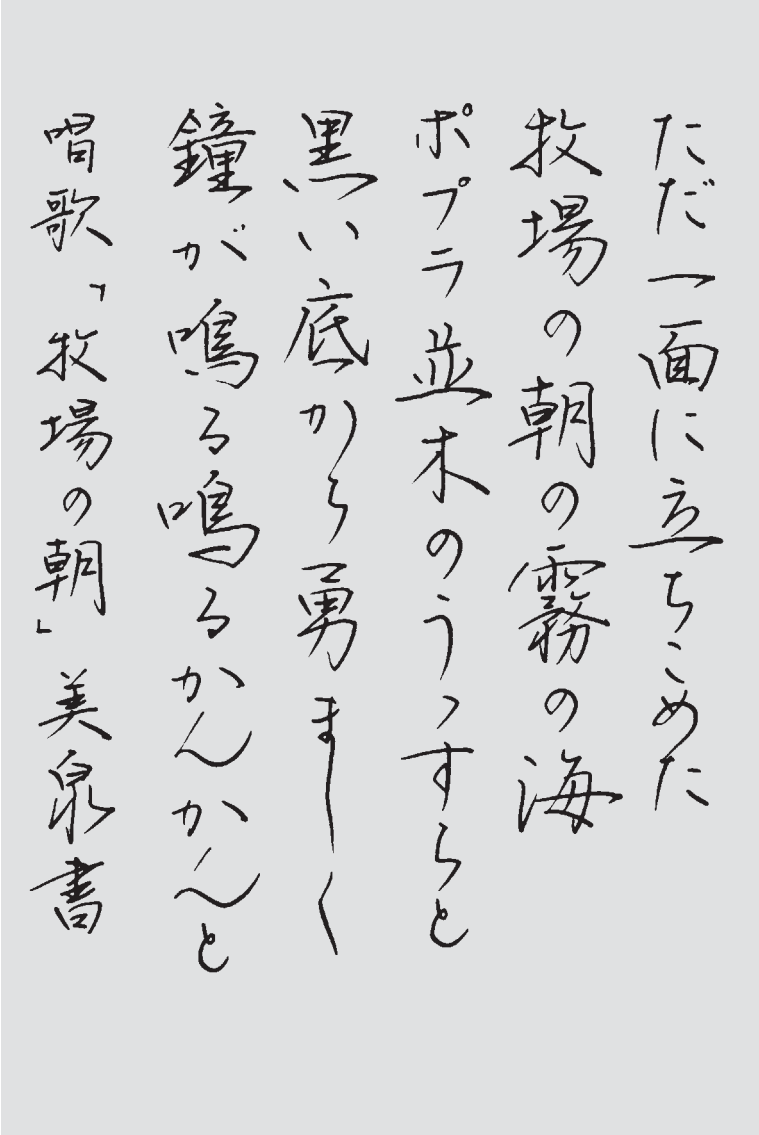
今月は14文字を単体の行書で表現してみました。

「枯樹賦」のイメージを背景に小気味よいリズムを大切にし、一点一画ゆるぎない表現で、爽快な作風に挑戦してみませんか。上品な行書作が生まれると思います。

※筆は羊毛筆使用

ペン字規定【九月十五日締めきり】

川村美泉選書



書体＝自由

◇用紙　市販ハガキまたは私製のハガキ大(14.8×10㎝)の白紙を使用
◇黒インクのペンを使用（ボールペン・フェルトペン可）

ご注意!!　用紙の大きさにばらつきが見られます。用紙サイズ(14.8×10㎝)を守って下さい。

習い方解説（五）

川村美泉

コロナ禍の中で迎える2年目の夏。せめて心の中に清涼な空気を。

今月は5行書きの課題です。文字が多くなり、行間・字間が詰まってきますが、大きくペンを動かし、明るい作品を目指しましょう。

漢字は、平易な行書を使ったため堅いイメージになりましたが、もう少し簡略化して流れのある作品にも挑戦してみてください。

ただ一面に立ちこめた
牧場の朝の霧の海
ポプラ並木のうっすらと
黒い底から勇ましく
鐘が鳴る鳴るかんかんと
唱歌「牧場の朝」

実用書【九月十五日締めきり】

晩夏　ご繁栄　追伸　暑さも峠を
晩夏　ご繁栄　追伸　暑さも峠を
吹く風は早くも秋の気配を感じさせて
吹く風は早くも秋の気配を感じさせて

三浦鄭街

（楷書）晩夏　ご繁栄　追伸　暑さも峠を
（楷書）吹く風は早くも秋の気配を感じさせて

（行書）晩夏　ご繁栄　追伸　暑さも峠を
（行書）吹く風は早くも秋の気配を感じさせて

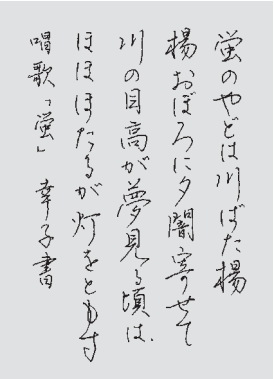
基本用語　「追伸」添え文。本文に書かなかったことがらなどを短文にして、控えめに手紙の末尾に。

（掲載手本90％に縮小）

◇小筆・筆ペン・サインペンなどを使用　署名は各自の姓号を
◇用紙は普通版半紙横½（24.5×16.5㎝）　B５版コピー用紙（26.0×18.1㎝）も可
◇所定の出品券を作品の右下に貼る　〈審査会員を含む誰でも出品可〉

今月のホープ作品各部総評 NO.722

ペン字部　師範　池田　幸子
漢字とかなの絶妙なバランスが実に見事。しなやかな線質で流麗さあふれ、格調高い作となった。
◎ペン字部総評　全体の構成もよく、明るく流れのある作品が多かった。落款も作品の一部です。最後まで丁寧に。（孝子評）



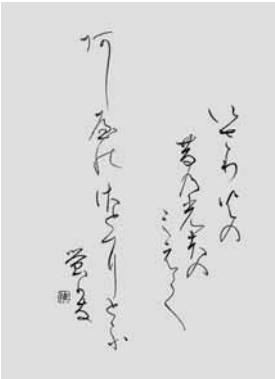
漢字条幅部　師範　田中　翠恵
骨格の安定した行書表現作。落ち着いた運筆は安定感があり、バランスよくまとまる作。
◎漢字条幅部総評　上級2行表現は安定した作が多かったが、やや平凡。下級1行作品は大胆な気力ある作も期待する。（大雲評）

前衛書部　特選　松本　秀皐
直線的緊張を作意し、バックの工夫された情景と見事に一致、打ち上げ花火のように爽快です。
◎前衛書部総評　創意工夫された前進作多く各自の日頃の努力を感じました。（慧香評）

現代詩文書部　特選　坂本　芳博
潤渇の疎密、構成の妙、世相を反映した句が味わい深く心に沁みる。
◎現代詩文書部総評　淡墨の柔らかさ、濃墨の強さ各々生かした作品作りを。（掃雪評）

かな条幅部　師範　岩田　博子
散らしの工夫が余白を美しく見せている。リズミカルで切れ味のよい線条と渇筆部が魅力的。
◎かな条幅部総評　「無」に誤字が多く見られた。なお、漢字として使用しているので変体がなとは区別する配慮が大切。（峰子評）

かな部　師範　苗代　佳恵
穂先を利かせたキリッとした線が印象的。落ち着いた散らしとも相まって、真摯な姿勢が窺える作品。
◎かな部総評　字粒の大きすぎや小さすぎのためバランスの悪い作品がありました。紙面に対する余白の研究が大切です。（洋子評）



漢字部　師範　久次米良重
金文の造形をもとに、運筆のリズム感が表情を見せて、素朴な味わいある作。落款は丁寧さがほしい。
◎漢字部総評　上級課題は4文字造形が難しかったか。簡略な字形をどうバランスを取るか。普段の力量が問われる。（大雲評）

実用書優秀作品

選評　岩垣若翠

侍史　机下　入梅　紫陽花が雨に
侍史　机下　入梅　紫陽花が雨に
降り続く雨に青空が恋しくなります
降り続く雨に青空が恋しくなります
加瀬明日夏

特選　加瀬明日夏

字形美しく、運筆伸びやか。メリハリの利いた表現が見事。

侍史　机下　入梅　紫陽花が雨に
侍史　机下　入梅　紫陽花が雨に
降り続く雨に青空が恋しくなります
降り続く雨に青空が恋しくなります
苗代佳恵

特選　苗代佳恵

温和で丁寧な筆致に好感が持てる。かなの連綿が自然で美しい。

◎実用書部総評

入選まであと一歩の作品が多いと感じました。文字の正確さ、行の通り、紙のサイズと文字の大きさの関係などに配慮してください。（若翠評）

特選

正華　加瀬明日夏
桜草　苗代佳恵
深大　多胡三千代
うる　篠原楊流
大雲　鷺山美梢

秀作（60音順）

紅瑤　相澤敦子
竹扇　新井春麗
千葉　安藤叙孝
田無　飯塚郁子
氷壑　伊澤香雨
及川明美
玉川　佐藤綾奈
千葉　竹浪叙舟
紅瑤　廣戸美岐
春汀　宮野鼻満津枝

佳作（60音順）

芳蘭　石毛喜蘭
誠和　石崎甘雨
清月　小林嘉江
水茎　清水蘭舟
八街　仙北屋峰雪
有秋　高橋千代子
たか　樋泉雪篁

高崎　二通麗子
大雲　波多野早紀
長月　原澤典子
梓江　松野和江
幸扇　山本梅香
竹美　横山蘭舟
楓会　吉田裕
大雲　渡辺妙華

入選（60音順）

紅瑤　藍澤白珠
もく　青木藤連
荒谷弘
深大　石井光子
一新　石蔵京華
土気　臼井綾乃
東総　薄田春緑
高真　梅山久子
大雲　美枫
ここ　加藤翠陽
小翠　奥村美枫
八街　松山峰生
大雲　小圓
紅瑤　栗原りか
蓉花　坂口和美
梓江　佐藤祥扇
佑朋　水津恵風
若葉　高木佳月
干潟　高木竹寿
紅風　高橋貴絵
大阪　高安翔琴

有秋　武山花源
高真　鶴淵亜希
江龍　鶴見嘉美
森地　東平絹子
米城　戸田風舞
天瑋　中里星子
紅瑤　中嶋澤
上泉　中村シゲ子
旭老　浪川節子
玉州　橋浦紫江
洞書　濱田竹雪
たか　浜野永篁
粋仙　藤井龍仙
八街　保谷美芳
AI　堀江幸泉
高崎　松浦玉江
大雲　松永香秋
石習　松丸愛子
小翠　松本小圓
八街　松山峰生
宗苑　茂木絢水
梓江　渡辺菖月
（選外503名氏名略）

今月の

特別研究部優秀作品（特選）

選評　辻元大雲　平川峰子　三浦鄭街　倉林紅瑤

小品の部

かな（卯月）

木村関泉

「夕されば」

木村関泉書

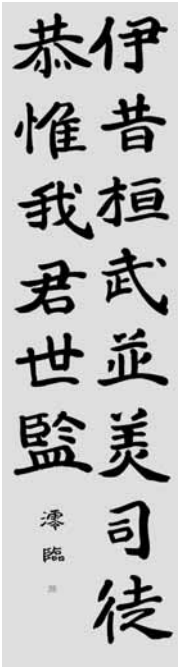
68×35㎝

◆小品ながら、動きが大胆で力強い。確かな線条は凜として響き、魅力的韻律を紡ぐ作となった。（峰子評）

臨書（紅瑤）

中嶋　澪

「鄭羲下碑」



中嶋　澪臨

135×35㎝

◆半切2行の臨書作。原碑の特徴をよく理解し、真面目に取り組んだ好感の持てる作品である。（鄭街評）

前衛書（墨洋社）

髙橋　栄美子

「紫」

髙橋　栄美子　書

132×33㎝

◆長鋒筆による細線と潤渇の美しさが魅力。半切縦の4部構成。さらに広狭の変化や傾きをつけリズム感を盛り込みたい。（紅瑤評）

現代詩文書（宗苑社）

茂木絢水

「宗左近の詩」

茂木絢水書

135×35㎝

◆上部からの4連構成で、リズム感よく表現した作。潤渇と太細の変化が紙面に動きを与えている。（大雲評）

〈特選候補者〉

（創作の部）

「漢字」
花埜　高橋　清琳

「かな」
一弦　早坂　萠香

「現代詩」
千葉　松村　秀扇
玄穹　尾形　紅霞
四枝　塚田　美翠
掃雪　大西　香蘭
四枝　大友　四峰

「前衛」
趙雲　吉田　恵弦
紅瑤　松本　秀皋

（臨書の部）

「漢字」
澄春　土屋　恵仙
墨縁　井戸端琉泉
京橋　田中　一葉
大阪　高安　翔琴
原澤　雄一
大雲　積田　雅雲
澄春　新行内芳蘭

「かな」
白珠　相内　珠莉
上泉　早部　朗

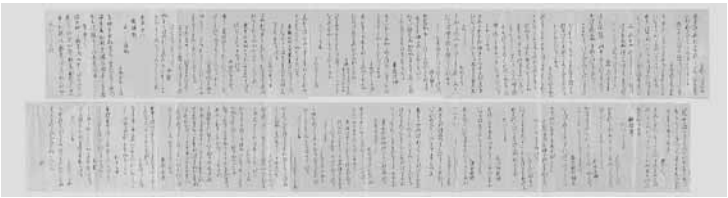
総出品点数 70点

創作の部（38点）
漢字 ― 3点
かな ― 3点
現代 ― 22点
篆刻 ― 0点
前衛 ― 10点

臨書の部（32点）
漢字 ― 28点
かな ― 4点

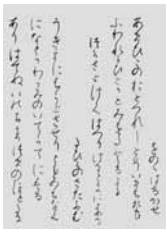
大作の部

臨書（千葉）猪又理扇「高野切第三種」



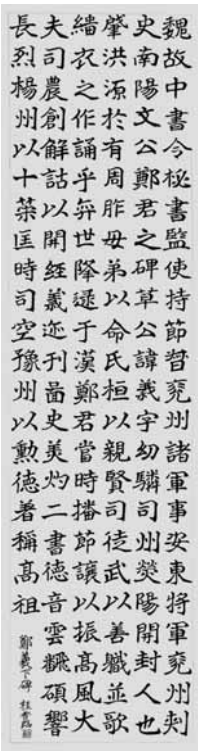
猪又理扇臨　54×196㎝

部分拡大



◆端正優美なかなの特徴を着実的確に捉えた充実作。ほぼ原寸大で上下2段に最後まで集中した臨書態度に感服。毎月連続出品も立派。（紅瑤評）

臨書（英峰会）佐藤桂香「鄭羲下碑」



佐藤桂香臨　170×45㎝

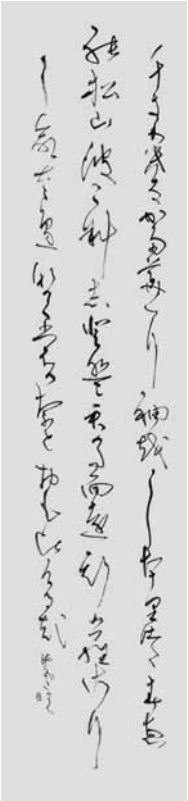
◆着実、正確な観察眼で、安定感ある臨書。ほぼ原寸大で原碑の持つのびやかな広がりを感じさせる作。（大雲評）

漢字（大拙社）畠中成山「千載一遇」

畠中成山書　178×45.5㎝

◆破筆を効果的に表現し、作者の充実した書活動の様子が窺えます。さらなる精進を期待します。（鄭街評）

かな（奥田）小林純風「ちぎりきな」



小林純風書　225×53㎝

◆縦画の伸びやかな線、横にも自在な動きで余白を考慮しながらの意欲的な見事な作品です。（峰子評）

創作の部（37点）
漢字―5点
かな―9点
現代―8点
前衛―15点
臨書の部（17点）
漢字―14点
かな―3点

総出品点数 54点

〈特選候補者〉

（創作の部）
「漢字」
粋仙　藤井龍仙
千葉　竹浪　叙舟
「かな」
奥田　橋本翠風
奥田　杉原桃華
「現代詩」
高橋　蒼香
市川　紫泉
八戸　坂本　蓉花
「前衛」
秀恵　阿部雅悠
大拙　北沢南鵬
紅瑤　栗原りか
紅瑤　佐藤成美
玉州　遠藤和香
蓮紅　大友紅蓉
（臨書の部）
「漢字」
紅瑤　相澤敦子
紅瑤　木暮千晶
紅瑤　金井みどり
大雲　佐藤希雲
高真　岩上郁子
「かな」
AI　藤村昌子
英峰　吉瀬彩雨

漢字研究部
（鄭羲下碑）

選評　稲垣小燕

紅霞　昭華　雄心　和香　菊枝　清風

朱鳳　佐子　美梢　美葵　篁明　奎山

睦月　潤　沙莉　静代　幸泉　紅雨

美智恵　成子　春華　翠寶　紫香　政代

今月のホープ作品

樽澤裕子

漢字研究部　特選　樽澤裕子

悠然とした運筆で心の温かさを彷彿とさせる作。内なる力が漲り、リズムに富み情趣溢れる筆致見事です。文字が語りかけているように感じられます。落款は作品に欠かせないものです。留意されますように。

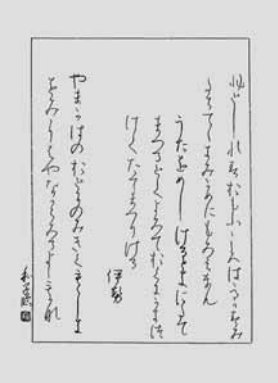
◎漢字研究部総評

鄭羲下碑は鄭道昭が父の事蹟を伝えるために摩崖（天然の岩壁）に刻した碑です。雄大な自然と対峙して生まれた書は、素朴で大らかな中に骨格の強さがあります。蔵鋒で丸みのある線質で表現され温かみのある柔和な雰囲気を醸し出していますが、内に秘めた芯の強さが伝わってきます。単に形を見るのでなく、鄭道昭の心情、書かれた意図を汲みとることが大事です。深く丁寧に臨書する姿勢を養っていきましょう。

かな研究部
（高野切第三種）

選評　奥田瑞舟

今月のホープ作品



境野和子

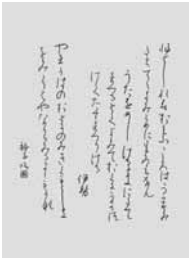
かな研究部　特選　境野和子

よく練れた線でゆったりと丁寧な運筆が紙にしっかり定着し、浮いた線が一本もありません。是非続けて磨きをかけてください。

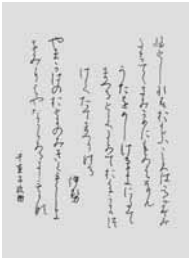
◎かな研究部総評

かなの原点とか、基本古筆のように扱われますが、書いてみるとなかなか手強い「第三種」です。400点余りの見事な研究作を緊張して拝見しました。

良泉　登江子

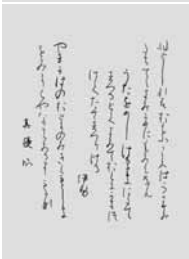


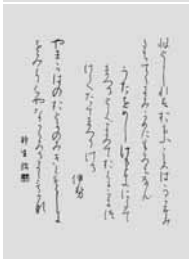
裕雅真　優子泉



恵千千　鶴朗子子

和美幹　加生子





かな研究部成績表

特選

清境野和子
境野和子
境野和子

昭和五十年一月二十七日第三種郵便物認可
令和三年七月二十五日　印刷
令和三年八月　一日　発行
（毎月一回一日発行）　書道芸術　第七二四号

●篆刻

【九月十五日締めきり】

〈出品規定〉審査会員を含む、誰でも出品可。

①篆刻　㋐課題による語句
　　㋑原印自由
　　（出品の際、原印のコピー添付）
②創作　語句自由

○印面の大きさは2.3㎝（八分角）以内とし朱文、白文自由。
○印箋は市販のもの、半紙横½の大きさに切ったものも可。
○創作、篆刻とも応募は一人一点。

8月号　篆刻課題

呉昌碩（清）

〈原印コピー〉

「雀（鶴）壽」

◉出品方法

用紙の右側に押印し、左側に印影の釈文を明記、並びに落款（氏号）を入れる。

722号篆刻優秀作品

選評　後藤大峰

篆刻

＜特　選＞

「圓印」

特選　久保村南城

何よりも運刀の良さが目に付き、さらに丁寧さが好結果に繋がった。

創作

「雲鶴」

特選　藤井龍仙

手慣れた感じのする作品。独特な構成は永年の研鑽の証しか。

◎篆刻部総評

全般にレベルアップしている感があります。特に創作部は独持の雰囲気のある作品が多々、散見されました。さらに多くの出品を望みます。（大峰評）

（篆刻）

特選
硯水　久保村南城

秀作（60音順）
芳琴　小野寺幸喜
北日　成田　能喜

佳作（60音順）
大雲　小沢　華仙
遊雲　関口　天峰
小中　中川　研治
林　淳一

入選（60音順）
大網　豪峰
丸山　片岡　妙子
生大　加藤　進
吉原

（選外なし）

（創作）

特選
粋仙　藤井　龍仙

秀作（60音順）
大雲　佐藤　希雲
生大　中島　義則
やま　橋本　清麗

佳作（60音順）
氷壑　伊澤　香雨
石心　伊藤　祥花
慈空　坂本　覚山
眩耀　佐々木青霞

入選（60音順）
唯一　篠田　華所
遊雲　辻川　隆子
宗苑　富見　京橋　石心
茂木　野木　紫蘭
絢水　唯一　文庵
逢沢　赤星　阿部　荒川　金谷　空華　皓洋　申
髙橋
塚田
宮内
美翠
成子
四枝　大雲　小映　游水　秀恵　遊雲　唯一
声香

（選外なし）

◎郵便物・清書・送金・一般事務等は
〒101-0031
東京都千代田区
東神田一―一六―七
東神田プラザビル三階
公益財団法人　書道芸術院
電話（〇三）三八六二―一九五四
FAX（〇三）三八六二―一九五七

※お問い合わせ、ご連絡は、月曜日～金曜日九時～十七時の間にお願いします。（土・日・祝日は休み）

コロナ禍の中、当分の間十時～十六時に時間の変更しております。

送　料

一か月の購読部数が1部～9部までの一回の郵送料

1部	79円
2部	95円
3部	103円
4部	119円
5部	135円
6部	151円
7部	167円
8部	183円
9部	199円

10部以上は送料免除

令和三年七月二十五日印刷
令和三年八月　一　日発行
定価　一部　七五〇円
編集兼発行人　辻元洋一（大雲）
データ処理　株式会社リンクス
印刷　小沢写真印刷株式会社
発行所　公益財団法人　書道芸術院
〒101-0031
東京都千代田区東神田一―一六―七
東神田プラザビル三階
電話（〇三）三八六二―一九五四
FAX（〇三）三八六二―一九五七
振替　〇〇一五〇―四―一三五〇五八
ホームページアドレス　http://www.links.co.jp/shogei/